

IT担当がいない会社のセキュリティ点検表

必要な対策は、会社の規模・業種・使うサービスで変わります。右端の「対象」が当てはまらない項目は飛ばしてください。



対象：

全

すべての会社

社

社員・スタッフがいる

個

個人情報を扱う

W

ホームページ・サーバーがある

受

データを受け渡す

AI

生成AIを使う

最優先

まず取り組みたい項目

パスワードとアカウント		
1	<div>☐</div> <div>パスワードを、サービスごとに変えている <div>最優先</div></div> <div>1つのサービスから漏れたとき、同じパスワードの別のサービスにも不正にログインされるおそれがあります。 まずやること：メールやネットバンキングなど重要なものから変える。パスワード管理ソフトも便利です。</div>	<div>全</div>
2	<div>☐</div> <div>メールや重要なサービスで、二段階認証を使っている <div>最優先</div></div> <div>パスワードが漏れても、スマホなどでの確認がなければログインされにくくなります。 まずやること：メールと、クラウドサービスの管理者アカウントから設定する。</div>	<div>全</div>
3	<div>☐</div> <div>退職・異動した人のアカウントを、すぐに止めている</div> <div>使われていないアカウントは、不正に使われても気づきにくくなります。 まずやること：退職の手続きに「アカウントの停止」を入れる。</div>	<div>社</div>
4	<div>☐</div> <div>共有アカウントと、使っている人を一覧にしている</div> <div>誰が使っているかわからないと、パスワードの変更や停止を判断できません。 まずやること：サービス名・アカウント・利用者・管理者を一覧にする。</div>	<div>社</div>
パソコン・ソフトの更新		
5	<div>☐</div> <div>パソコンやスマホの更新（アップデート）を止めずに適用している <div>最優先</div></div> <div>更新には、見つかった弱点をふさぐ修正が含まれます。 まずやること：自動更新を有効にする。</div>	<div>全</div>
6	<div>☐</div> <div>サポートが終わったOSやソフトを使っていない</div> <div>弱点が見つかったも、修正が提供されなくなります。 まずやること：使っているOSの版を確かめ、サポートの期限を調べる。</div>	<div>全</div>
7	<div>☐</div> <div>ウイルス対策が有効になっている <div>最優先</div></div> <div>多くの既知のウイルスを見つけて止められます。 まずやること：OS標準の機能も含め、有効で最新の状態かを確認する。</div>	<div>全</div>
データの守り方		
8	<div>☐</div> <div>大事なデータのバックアップを、定期的に取りっている <div>最優先</div></div> <div>故障・誤操作・ランサムウェアの被害から、元に戻せるようになります。 まずやること：対象と頻度を決め、1つはネットワークから切り離して保管する。</div>	<div>全</div>
9	<div>☐</div> <div>バックアップから、実際に元に戻せるかを試している</div> <div>いざというときに戻せないことがあります。 まずやること：年に1回は、ファイルを1つ戻してみる。</div>	<div>全</div>
10	<div>☐</div> <div>パソコンやUSBメモリの持ち出しと、紛失時のルールがある</div> <div>紛失や盗難は、情報漏えいの典型的な原因です。 まずやること：持ち出してよいものと、紛失時の連絡先を決める。</div>	<div>社</div> <div>個</div>
メールとデータの受け渡し		
11	<div>☐</div> <div>不審なメールの添付やリンクを開かないよう、全員に伝えている <div>最優先</div></div> <div>メールは、ウイルス感染や詐欺の入り口としてよく使われます。 まずやること：「怪しいと思ったら開かず相談する」を全員で共有する。</div>	<div>社</div>
12	<div>☐</div> <div>取引先とのファイルの受け渡し方法を決めている</div> <div>方法がばらばらだと、誤送信や、管理していないサービスからの漏えいにつながります。 まずやること：使うサービスと、送ってよい情報の範囲を決める。</div>	<div>受</div>
13	<div>☐</div> <div>パスワード付きZIPと、そのパスワードを同じメールの経路で送っていない</div> <div>同じ経路で送ると、途中で見られたときに両方が漏れます。 まずやること：受け取る人を限定できる共有の仕組みに切り替える。</div>	<div>個</div> <div>受</div>
ホームページとサーバー		
14	<div>☐</div> <div>ホームページが「https」（暗号化通信）になっている</div> <div>通信が暗号化され、ブラウザの「保護されていない通信」の表示も出ません。 まずやること：アドレス欄の表示を確認する。</div>	<div>W</div>
15	<div>☐</div> <div>ホームページのソフト（WordPressなど）を最新に保っている</div> <div>古いソフトは、改ざんや乗っ取りの原因になります。 まずやること：更新の担当者とタイミングを決める。</div>	<div>W</div>
16	<div>☐</div> <div>自社で管理するサーバーに、パスワードだけでログインできる状態になっていない</div> <div>推測や総当たりによる不正なログインを防げます。 まずやること：鍵による認証や接続元の制限を設定する（レンタルサーバーなら管理画面の設定を確認）。</div>	<div>W</div>
ルールと生成AI		
17	<div>☐</div> <div>情報の扱いについて、簡単な社内ルールがある</div> <div>全員が同じ判断をできるようにします。 まずやること：A4・1枚で「守るべき情報」と「してはいけないこと」を書く。</div>	<div>全</div>
18	<div>☐</div> <div>事故が起きたときに、誰に何を連絡するか決めている</div> <div>初動が早いほど、被害を小さくできます。 まずやること：社内の連絡先と、相談先（取引先・専門家など）を一覧にする。</div>	<div>全</div>
19	<div>☐</div> <div>生成AIに入力してよい情報と、いけない情報を決めている</div> <div>サービスや設定によっては、入力した内容が外部に保存されたり、学習に使われたりします。 まずやること：「お客様の情報と社外秘は入力しない」を決める。</div>	<div>AI</div>
20	<div>☐</div> <div>取引先からセキュリティの確認を求められたときの担当者を決めている</div> <div>回答が遅れたり不正確だったりすると、取引に影響することがあります。 まずやること：担当者と、回答の根拠になる資料の置き場所を決める。</div>	<div>受</div>

点検表の使い方と、ケース別の見方

この点検表は、自社の状態を手早く確かめるための簡易版です。

使い方

1. 当てはまるケースを選ぶ 下の表から、自社に当てはまるケースを選びます（複数可）。	2. 対象の項目だけ確かめる 選んだケースの項目番号を、点検表で確かめます。	3. 「最優先」から手を打つ チェックが付かなかった項目のうち、「最優先」から対策します。
---	--	---

ケース別に、特に確かめたい項目

全 すべての会社 規模や業種にかかわらず確認したい項目	1・2・5・6・7・8・9・17・18
社 社員・スタッフがいる 自分以外にパソコンやアカウントを使う人がいる	3・4・10・11
個 個人情報を扱う お客様・住民・患者などの個人情報や、取引先の情報を扱う	10・13
W ホームページ・サーバーがある 自社のホームページや、管理しているサーバーがある	14・15・16
受 データを受け渡す 取引先とファイルやデータをやりとりする	12・13・20
AI 生成AIを使う ChatGPTなどの生成AIを仕事で使う	19

ご注意

- ・この点検表は簡易的な確認です。業界の規則、取引先が求める要件、認証（ISMS・Pマークなど）の項目とは異なります。
- ・個人情報を扱う会社には、個人情報保護法で、漏えいなどを防ぐための安全管理の措置が求められています。
- ・取引先から、IPAの「SECURITY ACTION」（認定ではなく自己宣言の制度）を求められることがあります。基本対策はIPAの「情報セキュリティ6か条」が目安です。
- ・国のSCS評価制度（サプライチェーン強化に向けたセキュリティ対策評価制度）は、2027年3月に登録申請の受付が始まる予定です（IPA）。

参考資料

IPA（情報処理推進機構）「中小企業の情報セキュリティ対策ガイドライン」 <https://www.ipa.go.jp/security/guide/sme/about.html>
IPA「SECURITY ACTION」 <https://www.ipa.go.jp/security/security-action/>

取引先からセキュリティの確認（チェックシート）を求められたら

項目の読み解きから、今の状態の確認、回答案づくり、足りない対策の実施まで、オンラインでお手伝いします（チェックシートの回答支援 1回30,000円～・税別）。

無料相談：<https://dx-planning.com/contact/>